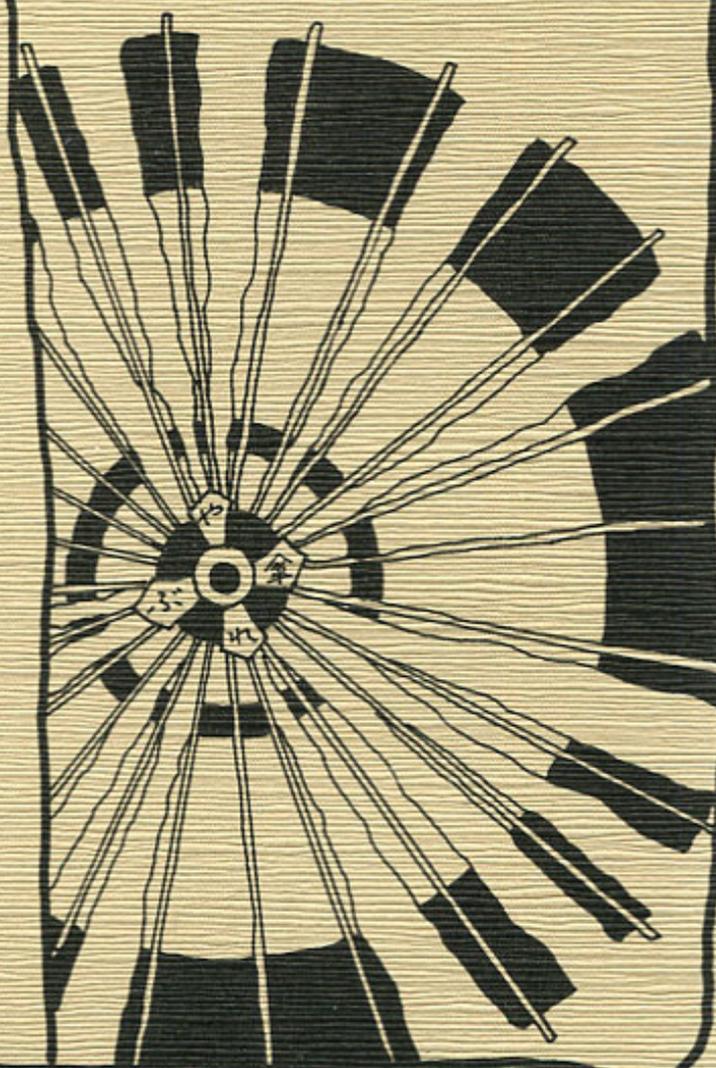


# やぶれ傘



八十一号

二〇二四年十二月

石膏のトルソと烏瓜ひとつ	根橋宏次
マフラーをゆるゆるにして上野まで	大島英昭
見えてきしおでんの底にあるなにか	きくちきみえ
牡蠣フライ五粒とポテトサラダの夜	丑久保 勲
川沿ひの家の灯そろふ冬隣	白石正躬
鱸のこゑの近づいてくる初時雨	藤井美晴
マテバシイ茸を着けて伐られけり	瀬島洒望
木漏れ日を底に沈める冬の沼	廣瀬雅男
コート脱ぐサーカスの絵の美術館	安藤久美子
用水はここより暗渠柿紅葉	渡邊孝彦
冬の夜や弔事切手の色見本	小山陽子
雨戸打つほどの雨音小夜時雨	國保八江
欠礼のはがきの届く黄落期	久世孝雄
秋高しリレーアンカー一人抜く	有賀昌子
鳩群れて道とどこほる小春かな	松村光典

抄 集 句 傘 れ ぶ や  
選 夫 紀 崎 大

十三夜川の水嵩増えしまま	齋藤朋子
対岸は耕作放棄赤のまま	眞田忠雄
コンバイン案山子に乗せて戻りけり	時田義勝
小春日や座布団並ぶ集会場	広瀬 濟
ありがたく席ゆづらるる着ぶくれて	青谷小枝
秋耕の土塊ほぐす日暮かな	秋山信行
煎餅のザラメをこぼす冬隣	天野美登里
新米と太字でしるす店先に	安斉正蔵
うすら寒外科医の腰のコルセット	大野芳久
金木犀手水舎で待つ盲導犬	岡田香緒里
残る虫積みし小枝のあたりより	奥田温子
残る蠅調剤室を飛び回る	神山市実
釣瓶落し米原駅で別れけり	上林富子
手作りのおはぎ必ず作りすぎ	菊池葉子
屋上の緑地の空を赤とんぼ	黒木東吾

美術館

安藤久美子

しばらくは桜もみぢの木洩れ日に  
走り根に寄せて椎の実小櫛の実  
昼の虫ここぞと思ふ辺りより  
帰燕の空五重塔の空となり  
地下を出て地上は風の黄落期  
釣瓶落とし東京駅舎灯りけり  
ゆつくりと日の回りくる掛大根  
虎落笛鍋はまもなく食べ頃に  
山茶花の風無く散るは北の門  
コート脱ぐサーカスの絵の美術館

蔦紅葉

渡邊孝彦

荻原や川の出合ひの水濁り  
こほろぎや野菜畑の中に道  
無患子の実は無患子の葉の陰に  
団栗や砂場の砂の黒ずんで  
電線の雀の群れは棒稲架へ  
稲扱きや膨らんでゆくもみ袋  
数珠玉の実の割り切れぬ堅さかな  
用水はここより暗渠柿紅葉  
道端に土管立ちをり蔦紅葉  
つくばひへ注がるる水や菊枯れて

冬の夜

小山陽子

草の穂の撓りて雀落ちさうで  
豚汁の沸騰すれば鶉の声  
秋の陽や雀は跳ねて鳩歩く  
こほろぎのこんな小さな叢に  
座布団に小さく座る冬はじめ  
生垣を飛び出す枝や冬日差  
冬浅き路地に干さるる蕎麦せいり  
券売機に札吸はれゆく一葉忌  
ぼさぼさの羽の鳩ゐる冬日差  
冬の夜や弔事切手の色見本

秋  
蝶

國保八江

木槿咲く床屋のとなり洗濯屋  
病室の窓に紅葉と新幹線  
雨戸打つほどの雨音小夜時雨  
露寒の笥を水の流れ来る  
大寺の井戸に大根洗ひをり  
花蕊の見事なお茶の花咲けり  
秋蝶の土手すれすれに飛びにけり  
何事も無視する孫に栗を剥く  
裏庭の日の差す辺り実南天  
蜻蛉玉光る静けさ小春かな

黄落期

久世孝雄

秋晴れや川の流れを眺めつつ  
岩を突く棹のしなりや水の秋  
水に散る桜紅葉のさらにまた  
妻と歩く道の両側草紅葉  
秋霖や襟かき合せバスに乗る  
カラカラとペットボトルの鳥威し  
金木犀土塀の続く坂下る  
カレンダ―破りし音や秋惜しむ  
晩秋や使ひ古せし鍬と鎌  
欠礼のはがきの届く黄落期

秋高し

有賀昌子

秋高しリレーアンカー一人抜く  
棒倒しの棒のてつぺん秋の雲  
用水路べりに紫式部の実  
鳥発ちて水面に波紋こぼれ萩  
秋深き息を大きく吸ひにけり  
霧晴れて橋のたもとに晶子歌碑  
白菊も黄菊もおなじかをりして  
石路の花僧の法話を聞きながす  
天辺より黄葉づる銀杏大樹かな  
絵画館前の広場や色鳥来

小池一司

椋鳥の棲みつく一樹家古りて  
朝寒や鯛焼き店の列に入り  
留守居して猫の寄り来る夜寒かな  
思はざる客来る夜の新走り  
雲なき日姫娑羅の樹に実のたわわ  
ガサガサと乳母車ゆく枯葉道  
公園は閉園間近浮寝鳥

小巻若菜

秋涼や一番風呂の湯の匂ひ  
墓参り済ませて秋の夜のしじま  
カフエのドア蔦這ふ壁に沿ひ行けば  
宵の秋古民家に聴くピアノの音  
メロデーは四時を知らせて秋深む  
晩秋の赤き三日月南西に  
ベランダの董は返り花見せて

齋藤朋子

初雪の富士を遠見の散歩かな  
戸隠の奥杜に詣で走り蕎麦  
十三夜川の水嵩増えしまま  
身にしむやマララの本を読みしより  
冬立つ日かけらぼろぼろクロワッサン  
山荘の裏は日溜り薪を割る  
空堀に積もりし落葉日の暮るる

齋藤 博

遠出なき身の裏山に紅葉狩り  
板の間のはひはひ囃す小春かな  
落ちさうで落ちぬ木の葉に風吹いて  
立冬の風と落暉と温度計  
冬紅葉腹を見せたる捨て小舟  
大マスクまた小マスクの診療所  
ひもじさを耐える病や冬の夜

## ◇1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	7日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	9日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	24日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	30日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	2日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・円覚寺	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは第5週の30日(金)です。

2月15日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR横須賀線北鎌倉駅改札口。吟行地は円覚寺。句会場は大船駅より徒歩10分の「鎌倉生涯学習センター・玉縄学習センター」第2集会室。

◎ 連絡先

瀬島孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ